東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年6月5日

両親の権利

親愛なるムスリムの皆様。現世での生で人は、アッラーに対する、そして被造物に対する二つの根本的責任を負っています。人の創造主に対する責任とは、その存在を知り、唯一性を信じ、財産及び体に関する崇拝行為を行うことです。人の、他の被造物に対する責任とは、彼らに慈悲といたわりを示すこと、彼らの権利を尊重することです。

親愛なるムスリムの皆様。被造物の中で人にとって最も近い存在であり、いたわりを受ける権利を最も有しているのは、その両親です。なぜなら母親は多くの苦しみの中で彼を身ごもり、胎内で育て、死の危険を冒してこの世界へと生み出し、母乳を飲ませ、夜も眠らず、子供が泣くだけで自分も苦しみ、つまり子供を健やかに穏やかに育てるためにすべてを犠牲にすることも厭わず生きてきたのです。父親は、子供の生活費を確保し、教育やしつけを受けさせるため、知性の面でも肉体の面でも、物質的にも精神的にもあらゆる犠牲を厭わずにきたのです。

親愛なるムスリムの皆様。神は、両親への敬意についてご自身への崇拝行為に続け、次のように仰せられています。「あなたの主は命じられる。かれの外何者をも崇拝してはならない。また両親に孝行しなさい。もし両親かまたそのどちらかが、あなたと一緒にいて老齢に達しても、かれらに『ちえっ』とか荒い言葉を使わず、親切な言葉で話しなさい。そして敬愛の情を込め、両親に対し謙虚に翼を低く垂れ（優しくし）て、『主よ、幼少の頃、わたしを愛育してくれたように、２人の上に御慈悲を御授け下さい。』と（祈りを）言うがいい」（夜の旅章第２３・２４節）　親愛なる兄弟姉妹の皆様。両親の社会的立場がどのようなものであれ、学問を修めた人であれ無学であれ、雇用者であれ労働者であれ、ムスリムであれ非ムスリムであれ、健康であれ病気であれ、子供は彼らに対する敬意や尊敬を決して不足させてはいけないのです。両親が、宗教に反しないことを命じたのであれば、子供はそれを行なわなければなりません。（参考：ルクマーン章、第１５節）ただ、教えに反する要求であれば、従わないことも可能です。アーイシャさまの妹であるエスマが預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）を訪れ、「ムスリムではない母が、必要とするものがあって私を訪ねてきました。彼女に善を施すことはできますか」と訊いた時、アッラーの使徒は「できます。あなたの母に善を施し、助けることができます」と応えられました。（ブハーリ，施し，３０；ムスリム，ゼカート，５０）

アブドゥッラー・ビン・マスードは次のように伝えています。「預言者に『アッラーにとってどのような行いがより好ましいのでしょうか』と尋ねました。預言者は『時間通りに行われた礼拝と答えられました。そして、次は何ですがと尋ねたら、彼は両親に善を施すことです』とおっしゃいました。私は『それからどのようなことでしょうか』と尋ねました。預言者は『アッラーの道における聖戦です』とおっしゃいました」（ブハーリ,イマーン、１５３）

「両親の喜びはアッラーのご満悦を、両親の怒りはアッラーのお怒りをもたらすものとなる」とされています。（ティルミズィ、ビッル、3）アッラーのご満悦を得たいムスリムの皆さん。両親にどのように敬意を示すべきかよく考え、彼らをいつでも満足させてください。